

音楽を比較して見いだした観点を基に試行することを通して、
曲にふさわしい表現ができる授業

和田 麻友美

1 題材名

音楽の構造、背景などのかかわらせて、曲にふさわしい表現をしよう（2年）

「信じる」（作詞：谷川俊太郎／作曲：松下 耕）

CD：「MY SONG 6 訂版 下」より「信じる」

「コーラスフェスティバル」13巻より「信じる」

2 目標

- 「信じる」の歌詞の解釈やモデル演奏と自分たちの演奏を関連付けて歌唱を工夫することを通して、自分たちの思いや意図をもって歌うことができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 「信じる」の曲想と音楽の構造、背景などのかかわりを理解することができる。○ 「信じる」のふさわしい表現をするために必要な口の開き方、息の使い方、発音の仕方などの歌い方を身に付けて歌うことができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 音色、強弱、速度、声部の役割を知覚し、それらの働きをとらえ、「信じる」の歌詞の解釈を関連付けながら思いを込めた歌い方を工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 「信じる」の曲の特徴や背景などを知り、歌詞の解釈を関連付けて、思いをもって歌おうとする。

4 本題材を学習する意義

音楽科の授業において、合唱は必ずといっていいほど取り扱われる。また、当校では授業だけに留まらず、音楽のつどいや入学式、卒業式など多くの場面でも合唱をする場が設けられている。それは、全員でひとつの音楽をつくりあげていくことで集団への所属感を抱くことができたり、聴いている人へ自分たちの思いを伝える手段として有効であったりするからである。

「信じる」は当校の音楽のつどいで、2学年合唱曲として発表している曲である。自分を信じる、あなたを信じる、そして世界を信じると対象を変えながらも、理由なく信じることの素晴らしさを表現している。また、「地雷を踏んで足をなくした子どもの写真」というショッキングな歌詞から始まる中間部では、速度や強弱の変化、特徴的なリズムなどで音楽の雰囲気急に変わっているように、至るところに曲想の工夫が見られる。全体的にコントラス

¹ 当校の学校行事の1つ。当日は、練習の成果を発揮し、学級や学年・全校で合唱を発表する。

トがはっきりとしている音楽の構成になっており、大変魅力的な曲である。

前題材でゴスペルに取り組み、思い切り声を出したり、ボディアクションをつけたりしながら、自分たちの思いを表現する活動を行った。終末では、「歌詞に込められた思いや自分たちの思いを大切に歌う」「ゴスペルでは、大きな声を出すことで思いが伝わることを体感した。合唱でも大きな声を出すことを意識して歌えば、歌詞に込められた思いが伝わるかもしれない。」と振り返った。以前の合唱では、音程やリズムを周りと合わせることばかりを気にしていた。しかし、ゴスペルを通して曲の歌詞の内容から伝えたい思いをもち、それを演奏としてどのように表現するとよいのかということに関連付けて考えるようになった。歌うことへの態度が以前とは少し変容している今、再び合唱で自分たちの思いを表現することで、より豊かな演奏になっていくことを実感できるであろう。本題材では、作詞者の思いが曲想に表れている「信じる」を歌うことで、自身のもつ思いを大切に表現の工夫をすることができ、作詞者や作曲者の曲に込めた思いや歌詞の解釈を、楽譜とかかわらせながら行うことを目指す。

また、本題材では演奏者の異なる2つの演奏の聴き比べとモデル演奏と自分たちの演奏の聴き比べを行う。そうすることで、生徒は楽譜の解釈による表現の違い、曲想にふさわしい発声について追求することができる。そこに、学習する意義がある。

5 本題材における手だて

<手だてア>

2つの「信じる」の演奏を聴き比べて追求の観点を見だし、表現を工夫していく題材構成とする。

「信じる」を演奏するために必要な追求の観点を見だして、表現の工夫をしようとするという資質・能力を発揮させるために行う。

① 「信じる」の音を覚え、自パートが歌えるようにする

全体で全パートがどのような音なのか知った後、パート毎にどのような旋律なのかをCDや教師の範唱を聴いたり、一緒に歌ったりしながら覚えていく。

② 「信じる」の背景などについて知る

「信じる」をつくったときの作詞者・作曲者のメッセージなどの資料や歌詞を提示する。作詞者の谷川俊太郎は「信じることに理由はいらない」というフレーズに強い思いをもっていると語っている。作曲者の松下耕は、谷川俊太郎がつくった素晴らしい歌詞にふさわしい旋律がなかなか思い浮かばず苦勞の末にできた曲であることを述べている。作詞者・作曲者の言葉から「信じる」がつけられた背景を知る。また、歌詞の解釈や世界観を全体で共有することで自分自身もつ思いを明らかにしていく。

③ 「信じる」の音楽の特徴を知る

「信じる」という曲の全体の構成などの特徴を知るために、楽譜を見たり、演奏を聴いたりして分かったことを挙げさせる。生徒は、「曲が大きく A-B-A に分けられ B の部分で曲想が変化すること」、「強弱や速度の変化」、「パート間で呼応したり、ユニゾンで歌ったりするところがあること」に気付く。気付いたことを授業者がグルーピングしていく中で、音色、

強弱，速度，声部の役割を要素として全体で共有していく。

④ 2つの「信じる」の演奏を聴き比べる

演奏者が異なる2つの「信じる」の演奏を聴き比べさせる。生徒は、同じ楽譜でも演奏者によってその表現が大きく違うことに気付く。具体的にはどのようなところに違いがあるのか聴き比べる中で、速度やクレッシェンド、アツチェレランドの強弱や速度の加減，声の質などの違いに気付くことができる。そして生徒は、「なぜ同じ楽譜でも演奏者によって表現の工夫の方法が異なるのだろうか」という疑問を抱く。同時に、歌詞や楽譜の解釈の違いが表現の違いにつながるのではないかと考え始める。

そこで、自分たちが音を覚えて歌えるようになったのはじめの演奏とモデル演奏を聴き比べさせる。そうすることで、発声の違いに気付き、口の開き方、息の使い方、発音の仕方を追求の観点として見いだすこととなる。

これらの働き掛けによって、『信じる』を自分たちの思いと意図をもって表現したい」という目的意識が醸成され、生徒は下記の課題を見いだす。

<本題材における課題>

「信じる」を表現するためにどのように歌うとよいだろうか。

<手だてイ>

グループや学級全体で「信じる」の曲想にふさわしい表現を検討し、試行する活動を組織する。

曲想と音楽の構造や曲の背景などを関連付けて音楽を理解し、「信じる」にふさわしい表現を自分たちの思いや意図をもって創意工夫するという資質・能力を発揮させるために行う。

○ 「信じる」のはじめの部分を取り上げて、学級全体で表現の工夫を検討し、試行する。

はじめに、学級全体で表現の工夫を検討し、試行する活動を行い、追求の観点（口の開き方、息の使い方、発音の仕方の仕方）を基に、追求の方法を学ぶ。

① はじめの部分の演奏を聴いてどのような感じがするのか、なぜそのように感じるのか、曲想と音楽の構造や曲の背景を関連付けて考えさせる。

② どのように演奏すると①の曲想が伝わるように歌えるのか、口の開き方、息の使い方、発音の仕方を追求の観点として考えさせ、実際に試行していく。

→ 生徒から客観的に聴き役を立て、できているか、より伝わるように演奏するためには、どのようにするとよいか、意見を求めながら表現の工夫ができるようにする。

○ グループで中間部の表現を検討し、試行する活動を行う。

表現の工夫を検討し、試行した活動をB部分でも行う。生徒は前時までに行っている中間部分の歌詞の解釈や思いについて全体で確認を行い、どのように工夫をするとよいかグループで検討し、試行する。

この働き掛けによって生徒は、歌詞と曲想を関連付けながら追求の観点を基に思いを込めた歌い方を工夫することができるようになる。

<手だてウ>

曲想が変化している部分の表現をグループで検討し、試行する活動を組織する。

曲想にふさわしい表現をするために必要な口の開き方、息の使い方、発音の仕方などの歌い方を身に付けて歌うという資質・能力を発揮させるために行う。

曲の中間部分の曲想が変化する部分を取り上げ、各パート混合のグループを3グループ編成する。そして、全体で追求した時のように、グループで曲想にふさわしい表現を検討し、試行する活動を組織する。生徒は、はじめの部分で検討を通して、試行する中で柔らかく、響きのある音色にするための歌い方を学んだ。具体的には、口の中を広げることや口を横でなく、縦に開くことが大切であること、強弱記号が p (ピアノ) だが言葉をはっきりさせるためには子音を立てて発音すると良いことなどである。同様に中間部分を歌ってみるが、柔らかく優しい雰囲気のはじめの部分と切迫したり不思議な雰囲気になったりする中間部分では、曲想が異なるため、同じ歌い方ではうまく表現することができないことに気付く。すると、今までの学習で得た曲にふさわしい歌い方である知識及び技能のかかわりがほどける。そこで、生徒は再度追求の観点（口の開き方、息の使い方、発音の仕方）を基に中間部分の曲想にふさわしい歌い方をグループで追求していくこととなる。

この働き掛けによって生徒は、歌詞と曲想を関連付けながら追求の観点を基に思いを込めた歌い方を工夫することができるようになる。

<手だてエ>

グループでの演奏を相互評価し、再度試行する活動を組織する。

曲想にふさわしい表現をするために必要な口の開き方、息の使い方、発音の仕方などの歌い方を身に付けて歌うという資質・能力を発揮させるために行う。

グループでの追求の際には聴き役を立て、追求の観点（口の開き方、息の使い方、発音の仕方）を基に、グループの演奏を評価させる。そして、演奏したグループは聴き役の評価を踏まえて自分たちの歌い方を振り返る。また、他グループに自グループの表現の工夫を説明し、できているかどうか意見をもらう。その意見を基にさらにどのように工夫したら、曲にふさわしい歌い方になるか、検討し、試行を行う。そして、グループで検討した工夫を学級全体の演奏として共有できるようにしていく。

このような働き掛けによって生徒は、歌詞の解釈と音楽を形づくっている要素を関連付けながら、仲間からの意見や追求の観点を基にして「信じる」の曲想にふさわしい歌い方の工夫をすることができるようになる。

<参考文献>

文部科学省(2017)「中学校学習指導要領解説 音楽編」

副島和久 編著(2017)『平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 音楽編』(明治図書)

宮下俊也 編著(2017)『平成 29 年改訂 中学校教育課程実践講座 音楽』(ぎょうせい)

相馬直子 (2010)『演奏表現のよさや音楽の特徴を感じ取り，他者と交流し合いながら，曲にふさわしい表現を工夫していく授業』(新潟大学教育学部附属新潟中学校 研究紀要第 53 集)

松尾 進(1994)『詩や曲の解釈をダイナミクス・テンポに生かし合唱を練り上げさせる指導』(新潟大学教育学部附属新潟中学校 研究紀要第 37 集)』

6 本題材における構想（全7時間 本時6/7）

目的意識	生徒の意識	学習活動・内容	教師の支援・指導	評価の観点 評価の方法
「信じる」を自分たちの思いと意図をもって歌いたい	<p>自分のパートの音が分かったぞ どんな思いが込められている曲なのか</p> <p>こんな音楽の特徴から「信じる」の世界を表現しているのかな 同じ曲だけど随分演奏者によっても演奏の方法が違うな</p>	<p>① 「信じる」の自分のパートを歌う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師やCDの範唱を聴く。 ○ 何度か歌い、音を覚える。 ○ 他のパートと合わせながら歌う。 <p>② 「信じる」の背景を知る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作詩者、作曲者の思いやエピソードを知る。 ○ 「信じる」の歌詞の内容を自分なりに解釈する。 <p>③ 「信じる」の音楽の特徴を知る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽譜を見て、気付いたことを挙げ、楽譜に書き込む。 <p>④ 2つの「信じる」を聴き比べる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏者が異なる2つの「信じる」を聴き、表現の違いを見いだす。 ○ モデル演奏と自分たちの演奏を聴き比べ、発声の違いに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱したり、範唱CDを聴かせたりする。 ○ 各パートを全員で歌わせる。 ○ パート毎に音を確認した後、他パートと合わせて歌わせる。(手だてア) ○ 「信じる」がつくられた背景を資料として提示する。 ○ 1連から3連までを黙読し、気付いたこと、疑問を挙げさせる。 ○ 班で共有→学級で発表 ○ 拡大した歌詞に解釈を書き込み、共有する。 ○ 「信じる」で伝えたいことは何か、考えさせる。 ○ 音楽の特徴を挙げさせ、音色、速度、強弱、声部の役割の4つの要素にグルーピングする。 ○ 音楽の特徴は何を表現しようとしているのか考えさせる。 	<p>【知技】 演奏</p> <p>【知技】 WS①</p> <p>【知技】 【思判表】 楽譜</p> <p>【思判表】 WS②③</p>
	<p>どのように演奏すると、「信じる」にふさわしい表現ができるかな</p>	<p>【本題材における課題】 「信じる」を表現するためにどのように歌うとよいだろうか。</p> <p>⑤ 学級全体で曲想にふさわしい表現を検討し、試行する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような曲想か歌詞と音楽をかかわらせて考える。 ○ 楽譜の読み取りをする。 ○ 挙げられたものを、グルーピングし、速度、強弱、音色(アーティキュレーション)、声部の役割の4つにラベリングし、「要素」として共有する。 ○ どのように歌うと、曲想を表現できるか考え、全体で検討し、試行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏者が異なる2つの「信じる」を聴かせ、表現の方法が異なっていることを聴き取らせる。 ○ どのところが異なっているか、挙げさせ、要素ごとにグルーピングする。(速度、強弱、音色) ○ はじめの部分を取り上げ、全体で曲にふさわしい表現について検討し、試行させる。(手だてイ) ○ どのような曲想か問う。 ○ 楽譜から読み取れることを挙げさせる。 ○ 曲想にふさわしい歌い方を考えさせたり、教えたりする。 ○ 仲間の意見を実際に全員で試行する。発言者やパートリーダーに伝わるかどうか聴かせて、評価させる。 ○ 口の開き方、息の使い方、発音の仕方を「追求の観点」として共有する。 	<p>【思判表】 WS④</p>
	<p>どのようにするとより伝わるかな</p>	<p>⑥ グループで曲想にふさわしい表現を検討し、試行する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間部について⑤の流れをグループで行う。 <p>⑦ 学級全体に発表して試行し、検討する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループが考えた工夫を演奏で示す。 ○ 相互評価で得た意見を基に、グループでさらに改善点を検討し、試行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間部をグループで検討し、試行させる。(手だてウ) ○ 学級全体に対して、グループの演奏を発表し、追求の観点を基に相互評価させる。(手だてエ) ○ 他グループの意見を基に、改善点を挙げさせ、試行させる。 	<p>【思判表】 WS④</p> <p>【思判表】 WS⑤</p>
	<p>考えたことを基にみんなで歌おう</p>	<p>⑧ 学年に提案する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ⑦で提案したことを学級の表現として発表する。 ○ 追求の観点を基に、コメントをする。 <p>⑨ 全体を振り返る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロGRESSカードで活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年での練習で、各学級の演奏を発表し合う。 ○ 追求の観点を基に、演奏について良い点・改善点を個人で記入させる。 	<p>【知技】 演奏</p> <p>【主態】 プロGRESSカード</p>

7 本時の詳細

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- 各パートの音を覚えている。(学習活動①)
- 「信じる」のつくられた背景を知ったり、歌詞の解釈を行ったりしている。(学習活動②)
- 「信じる」の音楽の特徴を音色，速度，強弱，声部の役割を観点にとらえている。(学習活動③)
- 2つの「信じる」(2つの CD，モデル演奏と自分たちの演奏)を聴き比べて，速度，強弱，音色の要素から表現の違いを聴き取っている。(学習活動④)
- 聴き比べから，発声の仕方，言葉の発音に課題を見出している。(学習活動④)
- はじめの部分を取り上げ，学級全体で表現の工夫をする活動を行う。(学習活動⑤)
- 学習活動⑤を基に，各パート混合で編成されたグループで，中間部分の曲想について考え，どのように表現をするとよいか考えている。(学習活動⑥)

(2) 本時のねらい

グループで表現の工夫をした演奏を相互評価したり，他グループからの意見を基に検討し，試行したりする活動を通して，追求の観点(口の開き方，息の使い方，発音の仕方)から歌詞の解釈と音楽の要素(速度，強弱，音色，声部の役割)を関連付けて歌い方を改善することができる。

(3) 評価基準

○ 評価の観点—思考・判断・表現

A	B
他グループからの意見を基に検討し，試行する際，歌詞の解釈と音楽の要素(速度，強弱，音色，声部の役割)を関連付け，追求の観点(口の開き方，息の使い方，発音の仕方)から意図を踏まえて歌い方を改善することができる。	他グループからの意見を基に検討し，試行する際，歌詞の解釈と音楽の要素(速度，強弱，音色，声部の役割)を関連付け，追求の観点(口の開き方，息の使い方，発音の仕方)から歌い方を改善することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・指導 ■評価の観点・方法
<p>① 前時の学習内容と本時の活動内容を確認する活動（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発声練習, 「信じる」を1回歌う。 ○ 本時の流れを知る。 <p>② グループで前時までの検討を確認する活動（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで考えた表現の工夫の内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地雷を」から一気に迫ってくる感じを出すためにはっきり発音して歌おう。 ○ 表現の工夫が伝わるか, 練習をする。 <p>③ 発表し合い, 助言をする活動（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような表現の工夫をしているかを説明して, 演奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちのグループは, 「地雷を」から一気に迫ってくる感じに雰囲気を変えるために言葉の発音に気を付けて子音を立てるように歌います。 ○ 聴いている生徒は, ワークシート(WS)に聴いて感じたことについて, 追求の観点からさらにどのようにするとよいのかという意見を記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「じらいを」をもっとはっきり発音できるように息のスピードを速くするとよい。 <p>④ 仲間からの意見を踏まえて検討する活動（8分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間からの意見を踏まえてどのように改善するとよいかWSに考えを記入する。(個人) ○ 追求の観点と歌詞の解釈や音楽の特徴などをかかわらせて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめ部分で行ったことについて, 追求の観点(口の開き方, 息の使い方, 発音の仕方)から声かけを行う。 ○ 本時のねらいと流れを示す。 ○ 前時までの検討内容を確認し, 発表ができるようにグループに分かれて練習させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><指示></p> <p>前時に検討した, 表現の工夫を確認し, 聴いている仲間に伝わるように練習を行いなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏を発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><発問></p> <p>グループで表現の工夫をしたことや追求の観点を基にどのように歌うのかを明らかにして, 演奏しなさい。</p> <p>聴いている人は, 追究の観点からさらにどのように歌うと良いかについての意見をWSに記入しなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聴いている生徒には, 聴いて感じた意見をWSに書かせる。 ○ 意見を, 挙げさせる。 ○ ③で挙げられた意見を踏まえ, どのように改善するとよいか個人でWSに記入させる。 <p style="text-align: right;">(手だてエ)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><発問></p> <p>グループで工夫した表現ができるためには, どのような改善が必要ですか。</p> <p>追求の観点と歌詞の解釈, 音楽の特徴などを関わらせて自分の意見を書きなさい。</p> </div>

- グループシートに個人の意見をまとめながら、どの部分を改善するのか共有する。(グループ)
- 改善点を1つに絞り、どのようにすると改善されるか検討する。
- グループシートに改善点や追求の観点からどのように改善を図るかなどを書き込んでいく。

○ その後、グループで検討させる。

<発問>

個人で考えたことをグループで共有しなさい。改善点を1つに絞り、追求の観点からどのようにするとよいか検討しなさい。

○ 拡大楽譜がついたグループシートに書き込ませる。

○ 改善する点を1つに絞らせる。

■ 思考力・判断力・表現力 WS グループシート

A: 「地雷」というショッキングな歌い出しから始まるため、一気に力強く何か迫ってきている雰囲気に変えたい。だから、「じらいを」を一音ずつはっきり発音して歌おうと考えて歌ったけど、「分からなくて、迫ってくる感じがなかった。mpだけど、弱くてもはっきり発音すると良い。」という助言をもらったね。口を開くだけでなく、子音を立てて発音すると弱くてもはっきりとしそうだな。

B: 息のスピードも勢いよく出すと鋭くなるんじゃないかな。

⑤ 改善点を基に試行する活動 (10分)

- ④で絞った改善点について試行する。
- ア・カペラで歌う。
- グループの中で、聴き役を立て、演奏を評価する。

○ グループに分かれて検討した改善点を中心に試行させる。

<指示>

グループで検討した改善点について、試行し、より表現の工夫が伝わる演奏になるようにしなさい。

<活動の方法>

- ア・カペラで歌う。はじめの音だけ確認する。
- 聴き役を立て、改善が図られているかどうか評価する。より伝わりようにするためには追求の観点を基にどのようにするとよいのかも伝える。」

(試行する)

C: あまり子音を立てている感じがわからないな。「じ」とか、口の奥から出すようにするといいいかな。

B: 弱く歌うにも、お腹の下に息をたっぷり入れておくといいんだよね。口も縦に開いた方が息の勢いもよくなるかもしれない。

(試行する)

C: 子音がはっきり発音されて、言葉がわかるようになったね。「ふんで」の「んで」のスタッカートテヌート。丁寧に歌うといいと思うけれど、つぎの「なくした」「写真」も3連符だったりスタッカートテヌートだったりするね。それで次へ次へと迫っていくように表現しているんじゃないかな。ちょっと強めに歌っていいかな。

(試行する)

<p>⑥ 試行した成果を発表する活動(5分)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 再度発表する。○ 聴く側は改善が図られているかどうかをWSに記入する。 <p>⑦ 今日の振り返り(2分)</p> <ul style="list-style-type: none">○ プロGRESSカードに今日の振り返りを記入する	<ul style="list-style-type: none">○ グループごとに発表させる。○ 聴く人は、WSに改善が図られているかどうかを記入させる。 <ul style="list-style-type: none">○ プロGRESSカードに今日の学習の振り返りを書かせる。
--	---